

令和2年度 第2回 北広島市旧島松駅通所整備基本計画検討委員会 議事録

日 時 令和3年3月18日(木) 午後4時00分～5時30分
場 所 北広島市エコミュージアムセンター2階 研修室

出席者 ●委員

北海道大学名誉教授：角幸博、北海道埋蔵文化財センター主査：藤井浩

北海道大学名誉教授：平井卓郎、札幌市立大学准教授：森朋子、

(欠席 北海道博物館学芸員：圓谷昂史)

●オブザーバー

北海道教育庁生涯学習推進局文化財博物館課：赤井文人

北広島市役所企画財政部企画課長：橋本征紀

北広島市役所経済部観光振興課長：山田基

北広島市役所建設部建築課長：松崎隆志

(欠席 北広島市建設部建築課長：松崎隆志)

●事務局

北広島市教育部長：千葉直樹

北広島市教育部エコミュージアムセンター長：丸毛直樹

主査：永坂隆之、主査(学芸員)：畠誠

●コンサルタント会社：(株)KITABA 神長、窪田、百瀬、松田

北電総合設計(株) 金尾、西川、大日向

文化財修理主任技術者：(株)文化財保存計画協会 細川、松澤

1 開 会

2 座長あいさつ

3 議事

【報告】

(1) 史跡旧島松駅通所耐震診断調査業務委託報告書(抜粋) 資料-1

事務局より資料-1に沿って説明した。

角委員長 ご説明いただいた資料について、ご意見いただきたい。

平井委員 23 ページ、24 ページに写真が掲載されている。この写真で見ると部材が比較的きれいな色に見えるが、これはオリジナルのものか。

事務局 23 ページの写真については、仕上げ材は新しいが中身はもともとあったものである。24 ページの写真は昭和 60 年に復元したもののなので、新しいものである。

- 平井委員 昭和 60 年に新規部材として入れたものであれば、それをそのまま貼ることは不可能ではないか。新しい部材であれば交差する形で合板を貼り込む方法もある。
- 事務局 昭和 60 年の板は文化的価値があまりないということであれば、合板に置き換えてしまうこともでき、そちらの方が楽である。
- 平井委員 新規部材とオリジナルのもので考え方が異なってくる。合板に置き換えるのも良いが、直行させて接着までしなくても、ビスを細かく打っていけば各段に強度が上がるのではないか。
- 事務局 正面の壁側をどのように対応するかが課題である。目標値を下げたとしても、どうしても足りなくなる部分は出てくる。
- 森委員 29 ページの表 6 が面白いと感じた。今後、整備基本計画を検討していくにおいても、この場所をどう使っていたかという建物の経緯が良く分かる。このような記録が重要であると感じた。
- 角委員長 耐震補強については保存活用計画の議論でもしてきたが、各委員の立場もあるので、できれば補強を見せたくないという話もあったり、それでは強度が持たないのではないかという話もあった。うまく落とすところを見つけられるとよい。

【議案】

(2) 史跡旧島松駅通所基本計画(素案)について 資料-2

事務局より資料-2に沿って説明した。

- 角委員長 素案を出してもらったが、ご意見、表現の仕方についてのご説明いただいた資料について、ご意見いただきたい。
- 平井委員 資料はとても分かりやすくなったと思う。中山久蔵氏が農業と駅通所をやっていたということはよく考えると関係があるということに気づく。移動の拠点であると同時に情報伝達の拠点であった。緑地の作り方も、本州と札幌、北海道の各地に情報伝達をする際の拠点であったのではないかと考えている。そのように「駅通所を通して知識が伝わり、北海道開拓が進んだ」というような視点を来年からの具体的な計画に組み込んでどうか。
- 森委員 歴史の捉え方について、建物の変遷も記載され、分かりやすくなった。今は、現在の史跡部分しか書かれていないが、恵庭市側にあったという歴史や、もともと農家だった家に駅通の機能が付加されていったことなども加えられると良い。現在の史跡範囲だけに特化した記載となってしまうと、さかのぼって歴史を考えることが難しくなってしまうのではないか。市境なので話しにくいことではあるが、どのように捉えているのか。
- 「建物の変遷で理解する」というコンセプトはとても良いと思った。
- 構造の話にもつながるが、5 ページの赤い点々の部分が移築した最も古い部分であるならば、ゾーンで分けるだけでなく、それが展示でも分かるようなやり方があってもよいのではあないか。
- ビューポイントを設定されているということが印象的であった。パンフレット等で表示するようなものだったかと思うが、総合サインが設置されるとのことなので、そこに記載があっても良いのではないかと思った。

また、ルートの設定については、ボランティアの方に以前解説してもらったときにとっても分かりやすかった。展示を回るルートとボランティアの解説を組み合わせる必要がある。

角委員長 恵庭側に駅通所があった歴史はストーリーに入れることは問題ないのか。

事務局 史実として残っていることなので、計画内にも記載している。パンフレットなどで紹介する際には、必要であれば入れていくこととしている。

森委員 駅通所の役割である、北海道を移動する際に「一度このあたりで休憩してからではないと峠を越えられない」という感覚を感じてもらえるとよい。必要に応じて恵庭市では川向い土地を整備するような動きはないのか。現在の史跡に行ってもあまりそのようなイメージがわからない。昔の歴史の捉え方を組み込んで欲しい。

事務局 現在、恵庭市では、駅通所があった場所にはそれが分かる看板が立っている。恵庭市と情報共有しながら進めて行きたい。

角委員長 市域を超えた連携ができると面白いのではないのか。

以前の検討の中で駅通所の中のどこに馬がいたのか、という議論もあった。今後、そのあたりも証拠として出てくるともっと面白いものになる。

旧島松駅通所の複雑なところは、農家であり駅通所であり、行在所でもあったということである。それぞれの役割や関連性が一般の方には伝わりにくい。活用や解説の仕方などでユニークな話ができるのではないのか。

札幌市の簾舞通行屋は反対に、駅通所になったときに農家住宅の部分が加えられた。通行屋だけでは生計が立てられないため、農業も行ったのではないかと考えている。当時の生計の立て方として読み取れる。このように幅広い視点で見ていくとよいのではないのか。

史跡内のガイドなども考えていく必要がある。バリアフリーの視点で考えると、障がいのある方が庭を歩くことは大変であるので、その対応も考えなくてはいけない。

課題の整理を行い、計画の中に入れていってほしい。

藤井副委員長 恵庭側との連携は気になっていた。史跡周辺は橋の存在が大きい。恵庭市側は島松沢などのチャシもあり、話題が豊富である。市民大学で案内したときにはチャシの話題の方が盛り上がる。島松沢を語るには、恵庭市側との情報共有が必要になってくる。

ビューポイントの設定は必要と思う。3ページの図では地図上から歩いて正面から入るルートになっているが、車通りが多いので危険なルートである。しかし国道との関連が深いので、目の前の道があってこそその駅通所であることを庭のビューポイント周辺の説明板などで説明できるとよい。昔を実感してもらえるのではないのか。

すべてを展示することは難しいことと思うので、北広島市のエコミュージアムのサテライトになっているので、コア施設との連携をうまく考えられるとよい。ここから駅通所が見えるというようなものがあるとよい。

赤井オブザーバー 旧島松駅通所においては、建物の変遷についての分かりにくいところを説明したいというところは、整備基本計画の真髄であると思うので、そこから議論を進めていただきたい。文化庁が求める基本計画に則って作成する必要がある。文化庁が求めているのは目次、上位計画との位置づけ、北広島市の概要、課題の抽出をしたうえで、史跡の価値をいかに保存し活用につなげていくかということである。

例えば、資料の2ページ目では、ゾーンを分けているが、本質的価値をどのように保存し、活用していくかというコンセプトからゾーン分けをすることが必要である。それぞれのゾーンをどう使うのかということが重要である。あるいはゾーンを分けないという考え方もある。便益施設ゾーンに駐車場があるが、どの程度の広さがあるのか。団体の観光客も対応可能なのか。将来的にどの程度の規模の団体客を受け入れていく想定なのか。それに従ってトイレの数なども変わってくる。また、憩いとふれあいゾーンも今後どのように活用していくのか、という青写真も見える必要がある。

駅通所の本質的価値をどう万全を期して保存し、活用・公開していくかというところを文章でまとめなくてはならない。残りの1年でそれらを進めて行ってほしい。

角委員長 ゾーンだけを見ると、駅通所だけのものであり、本質的価値とのつながりが分かりにくい。そこをきちんと議論していく必要がある。建物を理解するうえでは、中山久蔵事績ゾーンなど住んでいた人の歴史を語るゾーンも必要であるので、書き方の工夫が必要である。駐車場については団体のバスは入らないし、トイレも多くのお客さんは許容できない。今後のことを考えると、現在のものだけでは受け入れきれないということは市も認識していると思うので、表現の仕方を検討する必要がある。また、島松沢との位置づけも考えていく必要がある。

森委員 憩いとふれあいゾーンは市の所有地であるとのことだが、史跡との線引きもあるが、将来的に整備していくような計画なのか。

事務局 今回の計画はあくまでも赤いラインの中であるが、憩いとふれあいゾーンは市有地であるので、史跡の価値を高めていくために別の組織で計画を作っていくことを想定している。理想では、整備基本計画と平行して進めて行けると良いが、難しい。しかし、最終的には憩いとふれあいゾーンを含めた全体として文化庁からのアドバイスをもらいながら検討していきたい。

森委員 現在、はっきりと境界線があるようだったがそれは必要なのか。赤い線の意味はどれほど重要なのか

事務局 実際に当時どこまで水田があったかは分かっていないが、史跡を定める際に決めたラインである。

森委員 きっちりした境界は歴史から見るとなかったのではないと思う。今後の憩いとふれあいゾーンを整備するのであれば、一帯として考えていくとよいのではないか。

事務局 あくまで行政的な整理上で必要だった区分けなので、一帯として考えていくものである。

平井委員 憩いとふれあいゾーンは文化庁に報告する義務はないので、市が考えでやりやすいのではないか。もちろん史跡との調和を取る必要がある。

事務局 そういう意味では、駅通所の価値を補完するものとして整備できることが理想である。委員の皆さんのお知恵を拝借しながら、公園として整備していくことは可能と思っている。

角委員長 史跡を回ったときに休憩する場所がないことは課題であった。次のステップになると思うが、憩いとふれあいのゾーンは休憩なども使えるものとなるのではないか。

事務局 公園整備の視点やまちづくりの視点などさまざまな視点からの意見を捉えながら、進めて行きたい。

角委員長 実際は、整備基本計画書は文化庁のフォーマットに沿って作成していくものと思うが、今回

の資料は分かりやすくまとめてもらっている。これらをベースにしながら検討を進めていきたい。建物自体が持っている本質的な価値が伝わるものとしていく必要があるので、それを補完するためのいろんなアイデアなどを絡めながら展開していけるとよい。

本日、オブザーバーとして文化財保存計画協会の方もいらっしゃっている。何かご意見があれば発言を願いたい。

細川氏 旧島松駅通所は、見かけが一棟になっているので、建立及び修理の計画では、どのように建ったのかが気になった。母屋の通りが異なっていた。母屋の南側は当初材が残っているが、取り換えられている部分もある。天井板を何枚か抜いてライトアップすれば、材の違いも見る事ができる。展示と絡め、小屋を見せる方法がないのか、と思った。

角委員長 委員からも小屋を見せたいという意見があったが、天井板を外しても良いのか、という懸念もあった。構造補強も含め、今後の耐震と展示を検討していきたい。

事務局 先ほど赤井オブザーバーから発言があったが、今回の会議では委員に提案していないが、整備基本計画の素案はコンサルタントの方で整理している。これをもとに加筆等を行い、今年度の委託業務の成果物として提出してもらおう予定である。改めて今年度のまとめとして委員の皆さんに配布させていただきたい。

4 その他

5 閉会

6 議事